

109 No. 7: 中国でのビジネスリスクの高まりから分散投資に拍車-アセアンの魅力高まる - (平成 29 年 8 月 8 日)

中国への一極集中投資から、「チャイナ・プラスワン」として東南アジア諸国連合 (ASEAN) への分散投資が始まってから久しいが、その投資先である ASEAN 諸国の現状と、当事務所が行っている業務を紹介したいと思う。

中国経済の成長鈍化、人件費や原材料費の高騰によるコスト上昇により、中国に進出している日系企業の経営上のリスクが高まった結果、中国への一極集中投資から中国以外の地域へも分散投資を行う「チャイナ・プラスワン」の動きが、再び活発化してきている。

また、ASEAN の経済統合の進展による市場としての魅力の拡大や、国境を越えた生産ネットワークの強化により、ASEAN 諸国自身の投資誘因力が高まっており、日系企業の間で投資先としての ASEAN 諸国の魅力があらためて評価されていると言える。

アジア諸国の経済データ

項目	年度	中国	タイ	ベトナム	インドネシア	マレーシア	フィリピン
名目GDP総額 (USD10億)	2014年	10,380	374	186	889	327	285
実質GDP成長率	2015年	6.9%	2.8%	6.7%	4.8%	5.0%	5.8%
1人当たりGDP (USD)	2014年	7,589	5,444	2,052	3,533	10,803	2,865
日系進出企業数 (前年比)	2016年	32,313 (▲3.2%)	1,783 (+3.4%)	1,687 (+6.9%)	1,810 (+6.7%)	1,362 (▲1.5%)	1,440 (▲0.6%)
日本の対外直接投資 残高(USD百万)	2014年	104,355	52,337	12,011	23,630	13,706	11,164
在留邦人数	2016年	128,111	70,337	16,145	19,312	23,693	16,977

出典:JETRO、外務省「海外在留邦人数調査統計(平成29年要約版)」のデータを基に、香港駐在員事務所にて作成

図表にもあるように、中国と ASEAN 3 カ国を単純に比較してみると、経済規模、日系企業の進出数など、中国が圧倒している。しかし、ここでまず注目してもらいたいのは、経済データの中の実質国内総生産 (GDP) 成長率と 1 人当たり GDP の金額である。確かに、中国の GDP 成長率は 6.9% と高い数字を示しているが、近年下がり続けているのが現状である。それに対し、ベトナム、インドネシアなどは安定して高い GDP 成長率を維持しており、確実に経済規模が成長していることを意味している。逆に、1 人当たり GDP の金額では ASEAN 3 カ国は中国よりも低い数字となっており、これは 1 人当たりの所得が低く、労働コストが低いことを意味している。

また、日系進出企業数を見ると、中国以外の ASEAN 3 カ国は前年比で増加しており、海外進出を考える日系企業にとって ASEAN 諸国の存在感が高まっていることがわかる。

このようにアジア諸国に進出している地元企業を支援するために、当事務所では今年 2 月にベトナムのハノイ、6 月には香港とタイのバンコクで、それぞれ製造業向けの商談会を開催 (または共催) し、多くの地元企業に参加をいただいた。どの商談会でも地元企業同士や全国の企業とで、活発な商談が行われ、今後の取引拡大につながるイベントが開催できた。

当事務所はこのように、当行のネットワークや現地のネットワークを活用し、香港や中国を中心に ASEAN 諸国で、引き続き商談会等を開催していきたいと思っている。

伊藤 孝雄(いとう たかお)

足利銀行香港駐在員事務所所長。

明治大卒。1993 年足利銀行入行。三菱東京UFJ 銀行香港支店、みずほコーポレート銀行 (現みずほ銀行) 香港支店への出向、市場国際部などを経て、2015 年 4 月から現職。とちぎ未来大使。47 歳。栃木市出身。